
コンクリートを使わない基礎

Re | サントベース

～山間部・屋上でのモデルケース～

Re | サンドペース

工期
短縮

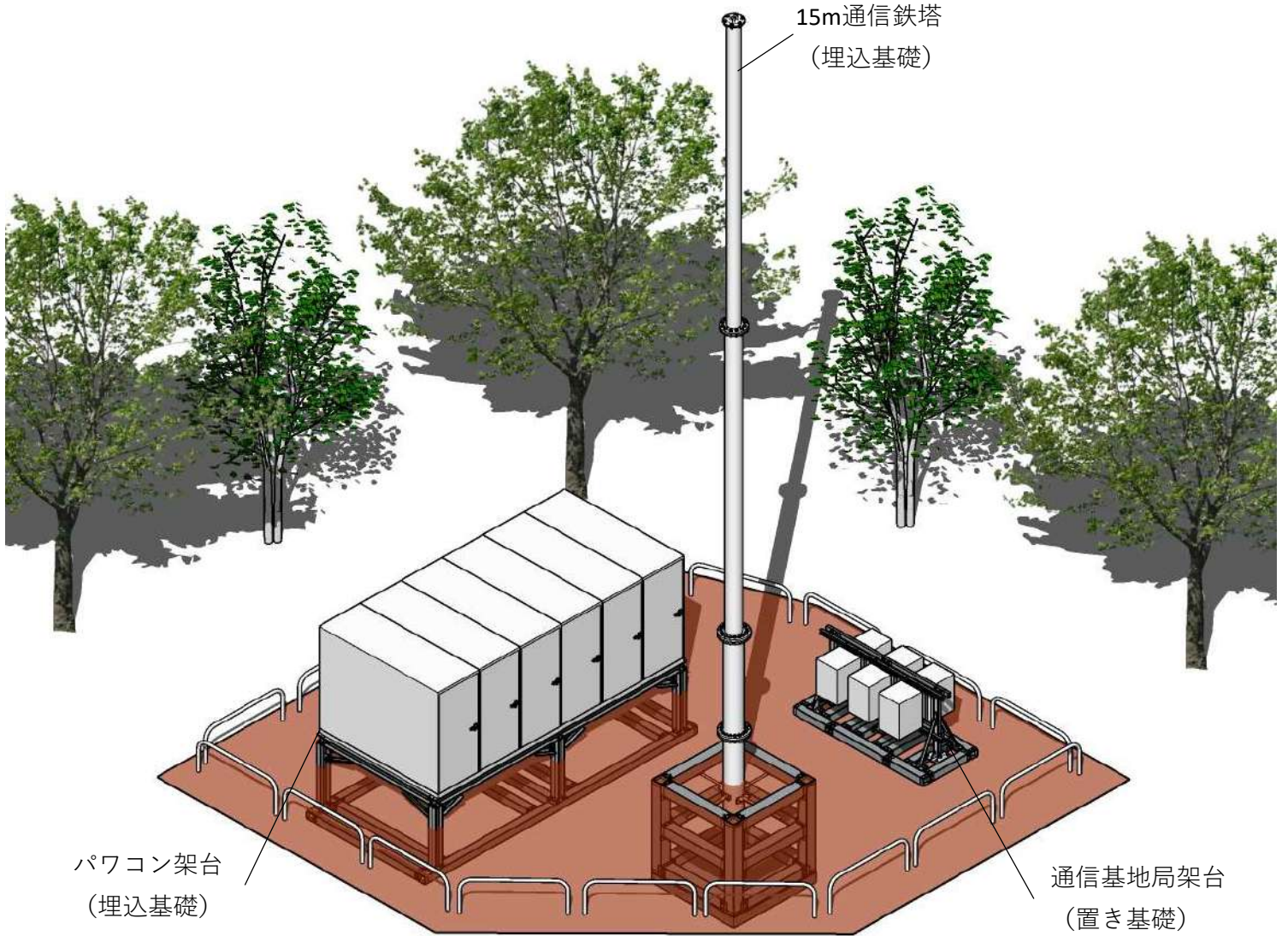
環境に
優しい

コスト
削減



CO₂
50%以上
削減

※環境省 算定方法からコンクリート基礎と比較



山間部の通信基地局イメージ図

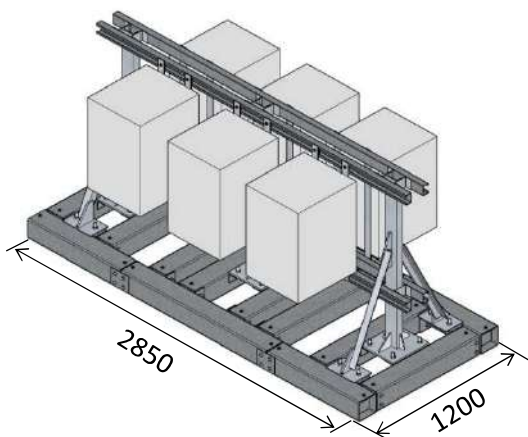
基地局でのReサンドベースのメリット

コンクリート・水を使わない

短納期の施工

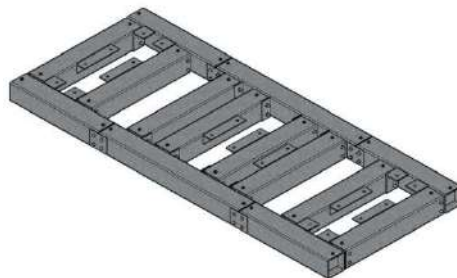
施工も容易、分解・解体も容易

通信基地局 架台 基礎



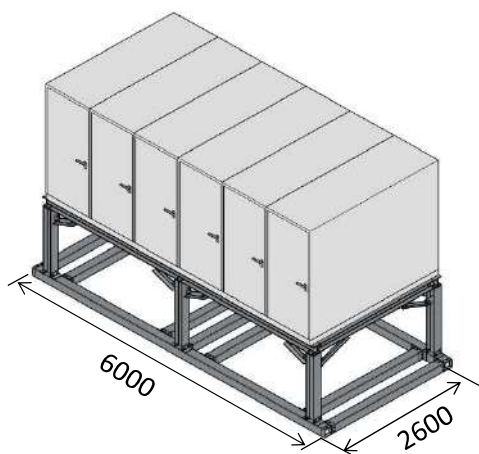
構造設計

設計基準風速： 38 m/s
地震地域係数： 1
水平震度： 0.3



□150x150x4.5

パワコン架台 基礎



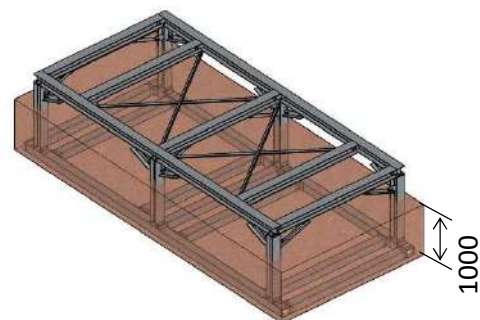
構造設計

設計基準風速： 38 m/s
地震地域係数： 1
水平震度： 0.3

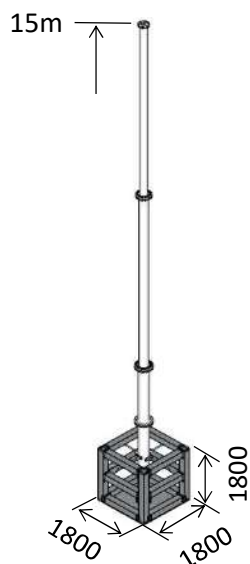
埋込後イメージ



□150x150x4.5



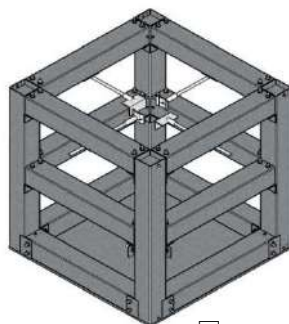
15m通信鉄塔 基礎



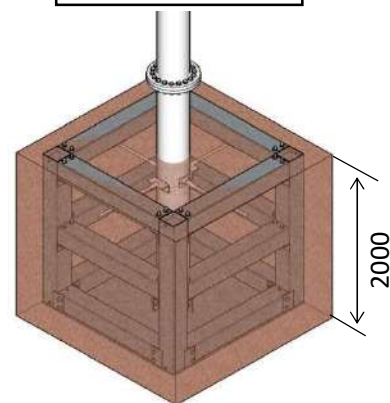
構造設計

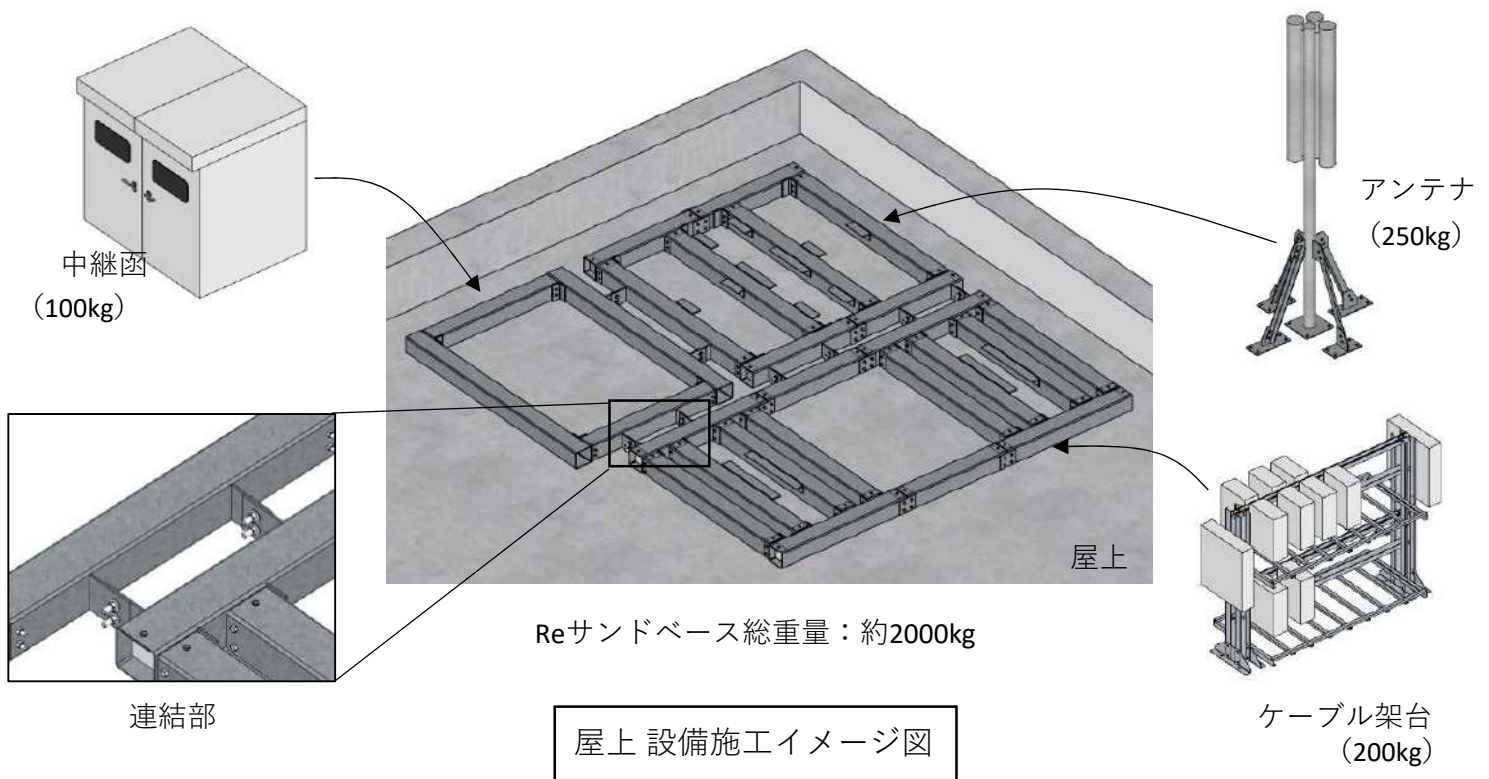
設計基準風速： 38 m/s
地震地域係数： 1
水平震度： 0.3

埋込後イメージ

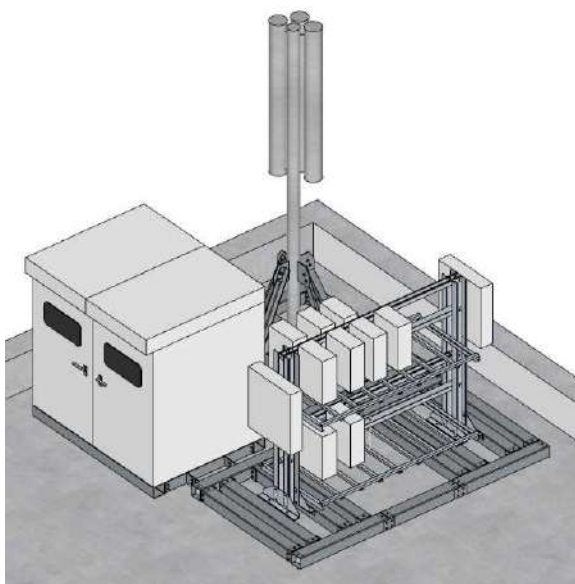


□200x200x6





屋上でのReサンドベースのメリット



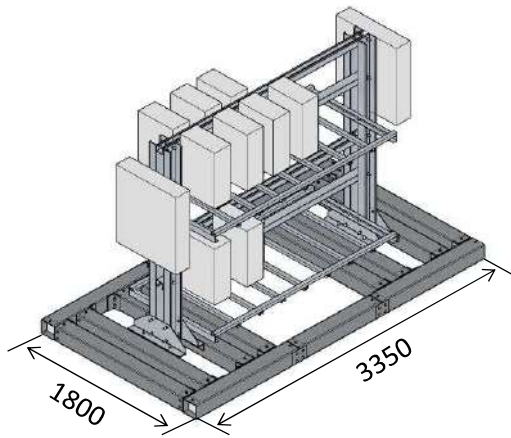
屋上 通信設備イメージ図

屋上の防水層を
破壊せずに設置できる

地震の力を逃がす
免震構造となり安全性を確保

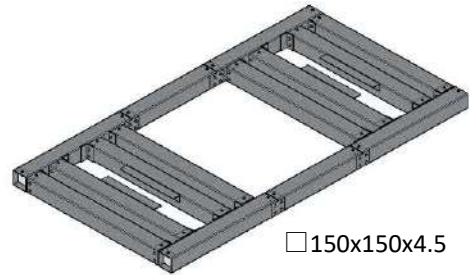
移設・撤去が容易にでき
省エネを実現できる

CV局 架台 基礎



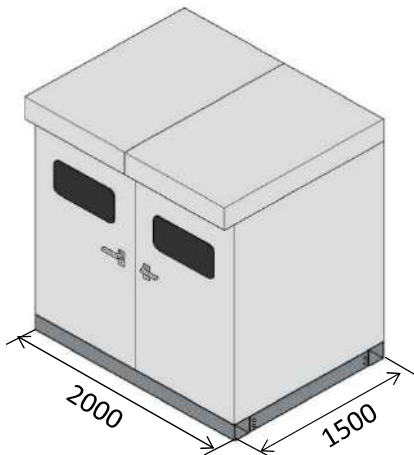
構造設計

設計基準風速：34 m/s
地震地域係数：1
水平震度：1



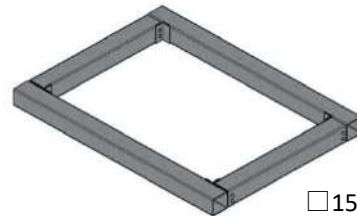
□150x150x4.5

中継函設備 基礎



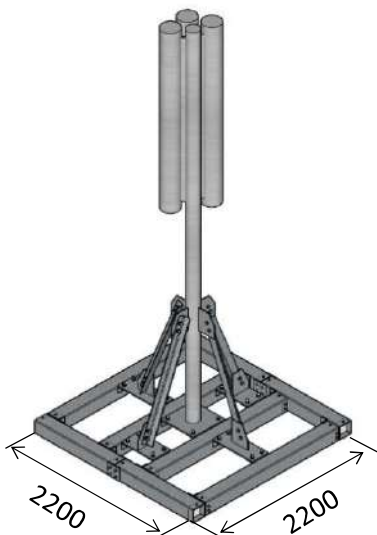
構造設計

設計基準風速：34 m/s
地震地域係数：1
水平震度：1



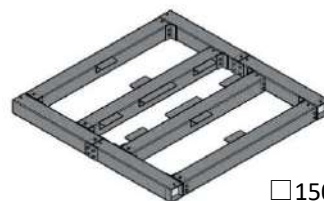
□150x150x4.5

アンテナ設備 基礎



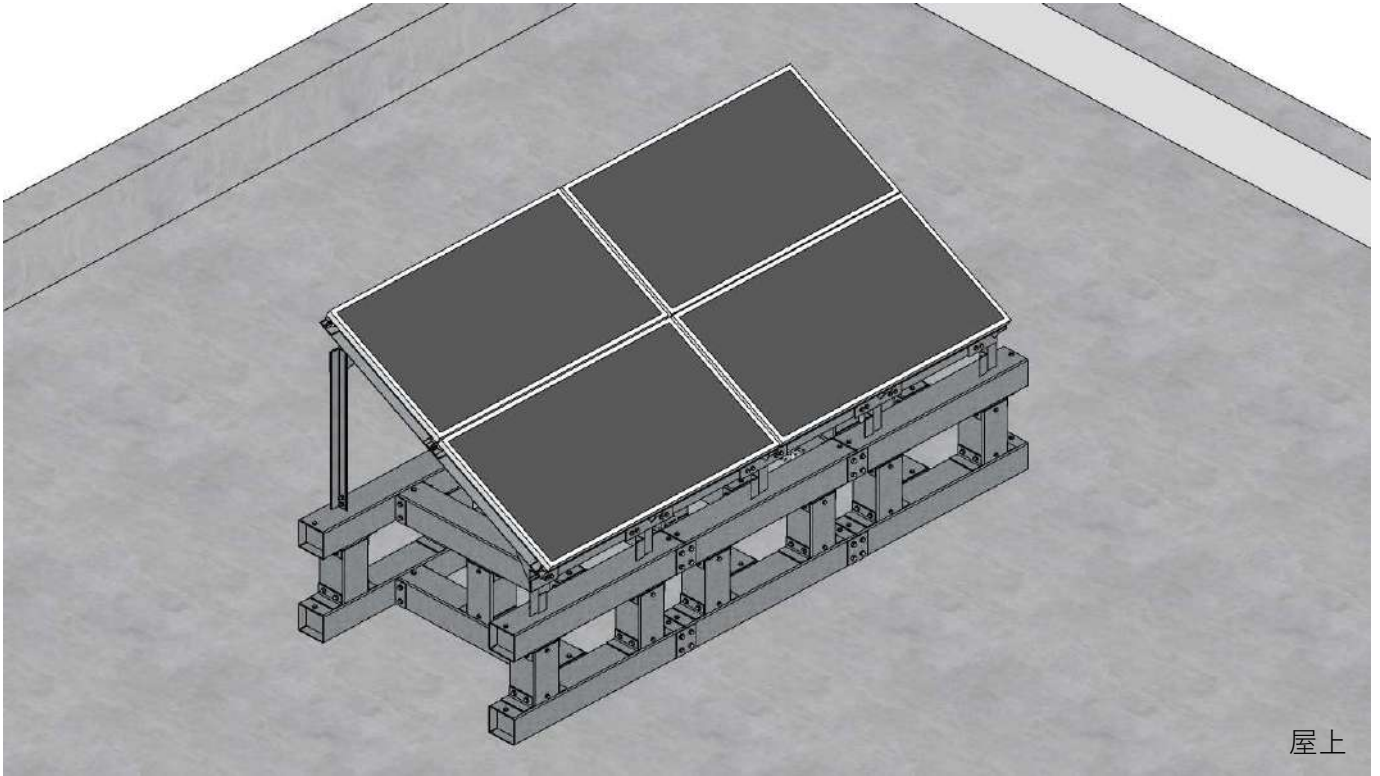
構造設計

設計基準風速：34 m/s
地震地域係数：1
水平震度：1



□150x150x4.5

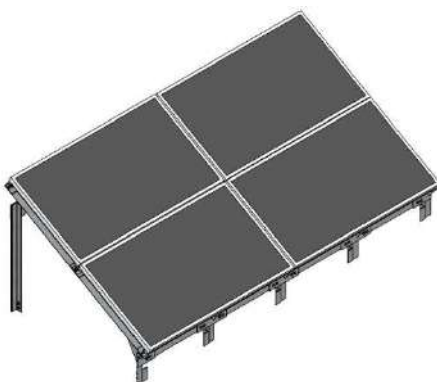
屋上でのReサンドベースの活用例 -太陽光発電-



屋上

屋上 太陽光施工イメージ図

太陽光発電設備 基礎

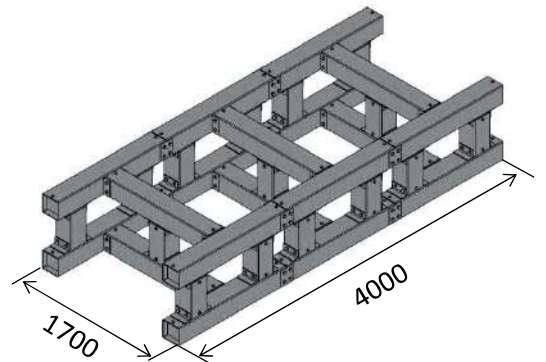


太陽光パネル+架台
(200kg)



構造設計

設計基準風速：34 m/s
地震地域係数：1
水平震度：1



Reサンドベース (3000kg)